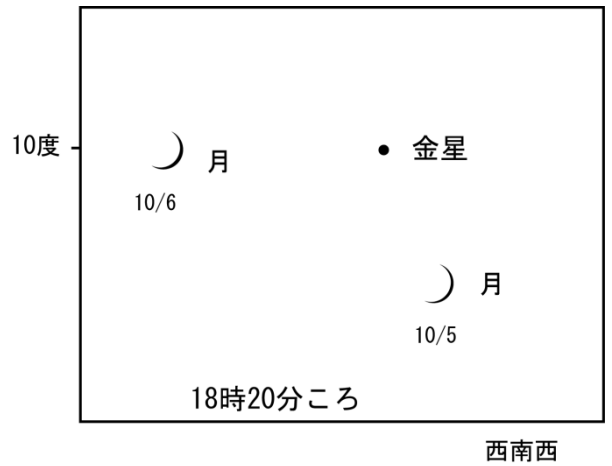


5日(土)、夕方西の空で、月と金星が並んで輝く

5日(土)の夕方、西の低い空で月と金星が並んで輝き、美しい眺めとなります。この日の日没は、17時50分ごろです。日の入り後、しばらくすると、西の低い空に、大変細い月が見えてきます。そして、この月の少し上に、金星が見えてくるでしょう。金星が大変明るいので、日没後20分ぐらいたつと見やすくなります。

そして、日没後30分の18時20分ごろが最も見やすくなるでしょう。ただし、高さが低いので、西方向の見晴らしのいい所をご覧ください。その後、月が19時前には沈みますので、注意してください。

なお、翌日の6日(日)になると、月が金星の左側に移動します。5日より月が金星から離れますが、月の高さが高くなるので、見やすいかもしれません。



14日(月)、月と土星が並んで輝く

21時ごろ南の空に、ほぼまん丸の明るい月が輝きます。目をこらして見ると、この月のすぐ左側に、明るい星が見えます。この星が土星です。月が明かり眩しいので、手で月を隠すように見ると見やすくなります。真夜中には、月と土星の間隔がせまくなりますが、高さが低くなるので、真夜中までが観察のチャンスです。

15日(火)、栗名月・後の月・十三夜の月

先月は、17日(火)に月が美しいと言われる、中秋の名月がありました。そして、今月は中秋の名月と同じように、月が美しく見える、栗名月が15日(火)に見られます。栗名月は、旧暦の9月13日の月で、別名は後の月(のちのつき)とも呼ばれます。また、旧暦の13日の月なるので、十三夜(じゅうさんや)の月とも呼ばれます。空が暗くなってくる18時ごろ、東の空に少し欠けた美しい姿が見えます。ぜひご覧ください。なお、15日から20日ごろにかけて、紫金山・アトラス彗星(すいせい)が明るくなるかもしれません。ただし、彗星は雲のように淡いので、月が明るく、郊外に出かけないと観察するのは難しいでしょう。予想より明るくなったら、月の反対方向の、夕方に西方向が開けた海岸に出かけると見えるかもしれません。

21日(月)~22日(火)、オリオン座流星群が極大

21日(月)~22日(火)の明け方、オリオン座流星群が極大を迎えます。オリオン座流星群は、流れるスピードが速いのが特徴です。ただ明るい流星があまりなく、2等~3等星くらいの流星が多くなる傾向があります。

極大を迎えるのは、21日の午後です。オリオン座流星群は、オリオン座が昇るまでは流星は見られません。また、オリオン座は21日の22時くらいに東の空から昇ってくるのですが、オリオン座が低い時には、あまり見ることができません。このため、多くなるのは、21日の深夜から、22日の明け方近くになってからでしょう。なお、この流星群は、極大のところが長く、20日~25日くらいまで続きます。よって、必ず21日深夜から22日の明け方に見なくても、他の近くの日でも見ることができるのです。

今年は、月が満月すぎの明るい月が輝きます。このために条件が良くありません。実際に見える数は、空の条件の良い郊外で1時間あたり5個以上。松山市内では、1時間あたり数個程度になるでしょう。冷え込む時期ですので、注意してご覧ください。

21日(月)、深夜の東の空で、月と木星が並んで輝く

21日(月)の21時ごろ、東寄りの空に、半分より少し太い月が昇ってきます。そして、この月のすぐ右側を見ると、大変明るい星があるのが分かります。この明るい星が、木星です。21時ごろは高さが低いので、あまり目立ちません。しかし、22時ごろになると高さが高く目立ってきます。少し遅めの時間に見るといいでしょう。

23日(水)、深夜の東の空で、月と木星が並んで輝く

23日(水)の23時ごろ、東寄りの空に、ほぼ半分に欠けた月が昇ってきます。そして、この月のすぐ左側を見ると、やや明るい星びつたり並んでいます。また、少し離れて、左上にも星が見えるでしょう。この二つの星は、ふたご座のポルクスとカストルです。ポルクスが月に近い星、カストルが月から少し離れた星です。また、月の右下にも明るい星が見えてきます。この星が火星です。ふたご座の星より少し明るく、オレンジ色が特徴です。木星ほどは明るくないので、注意深く探してください。また、24日(木)日付が変わる、午前0時以降は高さが高くなり見やすくなるでしょう。

